

旧金杉台中学校校舎の一部を発達障害児童・生徒の学習場所として
活用することについての陳情

令和5年3月31日をもって閉校致しました船橋市立金杉台中学校跡地活用について、地元自治会からの要望をお伝えさせていただきます。

現在、当該地は「埋蔵文化財調査研究センター（仮称）」として再構築されるべく整備が進んでいることは承知致しております。船橋市は遺跡、埋蔵物が多く、その保管研究、また歴史を刻んでいく場所として活用されることは、地元としても大変喜ばしく誇りに思っています。地域住民への開放等のご配慮もいただき、用途多様な場所として利便性が増すことも間違いないでしょう。

が、この「用途多様」な観点からは、まだ最大限に活用されている場所とは言い切れないと思っております。

具体的には上階部分の元教室です。

現存の建物の構造を活かしての仕様変更につき、整備は使い勝手の良い下階から順に行われていくと考えております。上階部分はエレベーターがありませんので、研究場所、地域の方へ開放するにはふさわしくなく、空き部屋が発生してしまうのではないのでしょうか。

そこで、表題の通りの活かし方を提案、是非とも実施して頂きたく声を上げさせて頂きました。

特別支援学級用の教室は依然不足、新規に建設された塚田南小学校にも設置されておりません。諸事情あつてのことと思いますが、それだけ教育現場の充実は困難を極めていることを情報ある度に感じております。

そのような中、一度は「金杉台中学校跡地を発達障害児童・生徒の学び舎として活用すること」について、市へ要望、議会へ陳情として上げさせて頂き、未だ進展のな

い事由ですが、何とか活用、役立てることはできないかという思いが再び頭をもたげて参りました。

新設が難しいのであれば、既存の空き教室を暫定的にでも活用する手段をとり、まずは特別支援教育を必要とする児童・生徒の「学習場所」を確保するのが最優先ではないか、その場所として旧金杉台中学校の元教室を活用して頂きたいのです。

ADHD, ASD, LD 等発達障害を抱えている、またはその傾向にある児童・生徒の数は30人に3~4人いると言われており、大多数が通常学級で学び社会へ巣立っていくのが現状です。そして、社会人として働く中で違和感を覚え、他人と上手く付き合えず、生き辛さを感じ、転職を繰り返す人も少なくないと聞きます。

そのような方々が、違和感を覚える前に的確な対処が成されていたら、その方の持つ“特性”を早期から伸ばす教育を受けていたら、雇用も広がり、安心・安定した生活を送ることができるのではないかと思います。その特性を活かした働きが叶えば、社会の発展に寄与する貴重な存在ともなるでしょう。

市内の発達障害児童・生徒数を知る術を私たちはもちません。ただ、その方々が、安心して、ありのままの自分で学びを深められる“場所作り”を提案させて頂くことならできます。

何卒、“元学校施設”を社会貢献の場として有効活用して頂きたく、ここに表題の通り陳情させて頂きます。

以 上